

取手市ソフトバレーボール大会 競技規則(特別ルール)

※ 本ルールは取手市ソフトバレーボール大会を開催するにあたり、主催者が独自に定めたものである。
(公式のルールではない)

※ 左欄に一般の部を、右欄に小学生の部ルールを表示する。小学生ルールで特に併記されていない部分は、一般の部ルールに準ずるものとする。

一 般 の 部	小 学 生 の 部
---------	-----------

●コートと用具	
<ul style="list-style-type: none"> ○コートは原則としてバドミントンコートを使用する。(13.4m×6.1m) ○コートは2本のサイドラインと2本のエンドラインによって区画される。区画線(幅5cm)はコート内に含むものとする。 ○ネットの高さは2.00mとする。 ○ボールは主催者が用意したものを使用する。 (ゴム製で重さ210±10g, 円周78±1cm。色は限定しない。) ○アンテナは使用しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ネットの高さは1.80mとする。

●チーム	
<ul style="list-style-type: none"> ○競技者は原則中学生以上の男女とする。 ○チームは、監督1人、主将を含む競技者6人と4人以内の交代競技者で構成される。また、コーチ1人を選任することができる。 ○監督は成人者とし、チームの責任者となる。 ○監督、コーチは競技者を兼ねることができるが、その結果、競技者、交代競技者の数が規定を超えることはできない。 ○チームの男女の比率等の取り決めはないため各チームの判断による(女性みのチームもあり得る) 	<ul style="list-style-type: none"> ○競技者は小学生(原則4年生以上)の男女とする。

◎ 参加者は、協議規則を遵守し、試合中、常にフェアプレーの原則とその精神に基づいた行動をとらなければならない。

◎ 監督および主将は、チームの規律について責任を負わなければならない。

●試合の準備	
<ul style="list-style-type: none"> ○試合は1チーム6人とし、ポジションは自由とするが、<u>前衛(アタックゾーン・・・アタックラインよりも前位置)</u>は女性のみとする。 ○試合に先立ち、両チーム主将のじゃんけんにより、サービス権またはコート of のいずれかを決定する。 ○<u>試合前の公式練習は行わない。</u> ○ゲームベストの若い番号の順でサービスを行うこととする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポジションは自由とする。

●競技者の交代	
<ul style="list-style-type: none"> ○各セットの競技者交代は、4回(4人)以内とするが、2人から4人の競技者を同時に交代させることもできる。 ○セット開始時にコート内にいた競技者は、交代で退いた後、もとのサービス順の競技者とのみ一回コート内に復帰できる。 ○セット途中の交代でコート内に入った競技者は、交代で退いた後、同セットで再びコート内に復帰することはできない。 	

●タイムアウト	
○各チームに、1セットにつき最大2回のタイムアウトが認められる。 ○タイムアウトは、1回につき30秒とする。	○1セットにつき1回認められる。

◎要求の方法

競技者交代およびタイムアウトは、ボールがデッドのときサービス許可の笛の前に主審または副審に対し、主将または監督によって要求される。

●コートの変替	
○各セット終了後、チームはコートを変替する。 ○最終セットは、一方のチームが5点に達したとき、コートを変替する。 ○セット間の変替時間は、1～2セット間は60秒、2～3セット間は90秒とする。 ○セット終了後、次セット開始時の整列順は、前セット終了時でのサービスの順番で整列する（例：4番で終われば5番から整列）。	

●得点、セットおよび試合の勝者 （参加チーム数により変更する場合あり）	
○試合は3セット・マッチとし、2セットを先取したチームがその試合の勝者となる。 ○1セットは10点を先取したチームがそのセットの勝者となる。デュースは行わない。 ○親善試合は、1セットのみとし10点先取で終了とする。 ○相手チームがサービスや返球に失敗したり、または他の反則をしたときは、1点を得る。もし相手がサービス・チームであれば、サービス権も得る。	

●サービス	
○サービスはゲームベストの順番で行い、試合終了まで変更できない。 ○サービスはエンドラインの後方、サイドラインの延長線内から行い、1回とする。 ○サービスのボールが、ネットに触れて相手コートに入ったものはインプレイとする ○サーバーはボールを打つ瞬間、あるいはサービスをするために踏み切ったときエンドラインを含むコート内に触れてはならない。 ○第2セット以降のセット最初のサービスは、前セットの負けたチームによって行われる。 ○第2セット以降のサービスは前セット最後のサーバーの次の番号から始める。 ○サービスのトスは一度しかできない。ボールを手の中で動かしたり、タイミングをとるために床にドリブルすることは許される。（サービスをする意志があったと判断された場合のやり直しはできない。）	○サービスは、アンダーサービスのみとする。 ○アタックラインの後方、サイドラインの延長線内から行い、1回とする。 ○アタックラインを含むアタックライン前方のコート内に触れてはいけない。（注意程度にし、反則にはしない。） ○サービスは1度しかできないが、サービスのトスのやり直しは認められる。

●ボール・インとボール・アウト	
<p>【ボール・イン】 ○ボールが、コート区画線を含むコート内に接触したとき、そのボールはインとなる。</p> <p>【ボール・アウト】 ○ボールが、コート区画線の完全な外側の床に落下するか、コート外の物体に触れたとき ○ボールが、ネットポールの想像延長線の間を通過しなかったとき。 ○ボールが、ネット下を通過して相手方コートに入ったとき。 ○ボールが、他コートに入ったとき（空中にあってもアウトとする）。</p>	

●ボールへの接触	
<p>○チームはネットを越えてボールを返すために、最大限<u>3回</u>プレーすることができる。ただし、自チーム側のネットに触れたボールを処理するときは最大限4回プレーすることができる。</p> <p>○同じ競技者が連続して2回ボールを打つことはできない。ただし、1度打ったボールがネットに触れた場合またはブロックの際に触れた場合は2回まで打つことができる。</p> <p>○ボールは、身体のどの部分に当たってもよい。</p> <p>○ボールは、打たれなければならない。つかんだり、投げてはならない。</p> <p>○ブロックした後、自陣にボールが来たときは、ブロックは1回とカウントするので、あと2回で返球しなければならない。</p> <p>○片手ブロックはOKとする。</p>	<p>○オーバータイムスは適用しないので、プレーの回数に制限はない。</p>

●プレー上の反則	
<p>次に挙げるプレーは反則(相手方のポイント)となる。</p> <p>○チームがサービス順(ゲームベストの番号順)を誤ってサービスを行ったとき。</p> <p>○サービスゾーンの外でサービスを行ったとき。(フット・フォールト)</p> <p>○サービスをするためにトスしたボールを打たなかったとき。</p> <p>○サービスされたボールが、相手方競技者に触れずにボール・アウトになったとき。</p> <p>○サービスされたボールをブロックしたとき。(ブロックの反則)</p> <p>○サービスされたボールをアタック・ヒットした時(アタック・ヒットの反則)</p> <p>○ネットを越えて相手方コートに打ち返すために、ボールへの接触が、許容回数を超えたとき。(オーバータイムス)</p> <p>○ボールに接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあったとき。(ホールディング)</p> <p>○同一競技者が、一連の動作の中で明らかに2度続けてボールに触れたとき。(ドリブル)ただし、第1レシーブのドリブルは許される。</p> <p>○インプレー中にネットに触れたとき。(タッチ・ネット)ただし、ボールをプレーしようとしていないときに、偶然に触れた場合、ポイントに影響がなければ反則にならない。</p> <p>○ネットによって分けられた相手コート上にあるボールに触れたとき。(オーバーネット)</p> <p>○センターラインを完全に超えて、相手方コートに触れたとき。(パッシ</p>	<p>○サービスをするためのトスはやり直しが認められる。</p> <p>○オーバータイムスは適用しない。</p>

<p>ング・ザ・センターライン)ただし、片方の足または手の一部が自チーム側に残っていれば許される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボールがアウトとなったとき。(ボール・アウト) ○相手チームのプレーを妨害する行為があったとき。 ○男子がショートサービスラインよりネットに近い場所で、ネットより高い位置で返球したとき。(ただし、ショートサービスライン後方からのアタック・ヒットした場合を除く) 	
---	--

<p>●その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○前衛(アタックゾーン)は女性のみとするが、男性がレシーブ・トスをするために一時的にアタックゾーンに入ることは可能とする。 ○男子がアタック・ヒットをする際は、ラインを含むアタックラインより後方でなければならない。(アタック・ヒットのあともアタックライン後方に着地しなければならない) 	

- ◎審判の判定に対する抗議は厳禁である。ただし、判定に対する質問は主将のみ主審に申し出ることができる。
- ◎審判または相手方に対しスポーツマンらしくない行為をとった場合、その競技者またはチームはその都度反則となる。主審はそのチームの試合を没収することができる。